

【研究論文】

「言語・数理運用科」実践の成果と課題

広島文教女子大学人間科学部

初等教育学科 教授 岡 利 道

1 研究の目的・方法

いよいよ軌道に乗ってきた「ひろしま型カリキュラム」である。特色のある教科の一つとしての「言語・数理運用科」。

広島市教育委員会との連携による共同研究を願う本学教職センターとしても、現時点において、標記のように、「言語・数理運用科」実践の成果と課題をしっかりと確認しておかねばならない。この点を、本研究の目的としたい。

刊行物やホームページで公表されているそれもあるだろう。また、筆者が直接授業参観の上、捉えることのできるそれもあるだろう。前者は公的なもの、後者は私的なものである。前者については、ちょっとした記事では真意が伝わらない恐れがあるので、刊行されて（冊子としてまとめられて）おり、なおかつホームページでも発信されているものを重視したい。それを、「2 公的に表明されている見解から」でまとめる。後者については、これまでに何度も訪問し、様子もよくわかっている小学校の実践を手がかりとしたい。それを、「3 授業実践の参観から」でまとめる。なお、全体を通してのまとめを、「4 考察」で述べる。

2 公的に表明されている見解から

まずはホームページであるが、やはり文部科学省のサイトと広島市教育委員会のサイトで取り上げられているものが重要な指針となるだろう。文部科学省のサイトで詳しく読むことができるものは、次の二つである。一つは、平成20年6月公表の“広島市の子どもたちに「確かな学力」を育むために 広島市検証改善委員会”（以下「H20.6版」と呼ぶ）であり、これは広島市教育委員会が平成20年3月にまとめた「学校改善支援プラン」を基にしているものである。もう一つは、平成21年8月公表の“広島市教育委員会 すべての子どもたちに「確かな学力」を in Hiroshima City”（以下「H21.8版」と呼ぶ）である。つまり、文部科学省のサイトで見られる主要な二つの記事は、詳しく調べようとするならば、広島市教育委員会のサイトを見ればよいという接続した関係になっている。

一つ目の「H20.6版」では、「言語・数理運用科」の趣旨を端的に伝えようとする内容（図1）が見られる。新教科の必要性が強調されるとともに、そこで養成したい三つの力（思考力・判断力・表現力）が、代表的な指導例（「100円パーキングの秘密」）の中で身につけていく様子が示されている。

しかしながら、この段階では、成果や課題まで踏み込んだ見解はまだ提示されていない。

二つ目の「H21.8版」では、まず、平成19年度の全国学力・学習状況調査の結果を分析したところ、広島市の児童生徒の学力の状況は、基礎的・基本的な知識・技能の定着については各学校の指導の成果が現れているものの、学んだ知識や技能を活用し、思考・判断・表現する力に課題があることが明らかになったとの全体的な見解が示される。新教科としての「言語・数理運用科」の必要性が強調さ

「言語・数理運用科」の学習過程

ステップ①情報の取り出し

身の回りや地域、世界での出来事、自然の事象を題材として、言語、数字や記号、図、グラフといった様々な方法で表現された資料から、目的に応じて情報を取り出します。

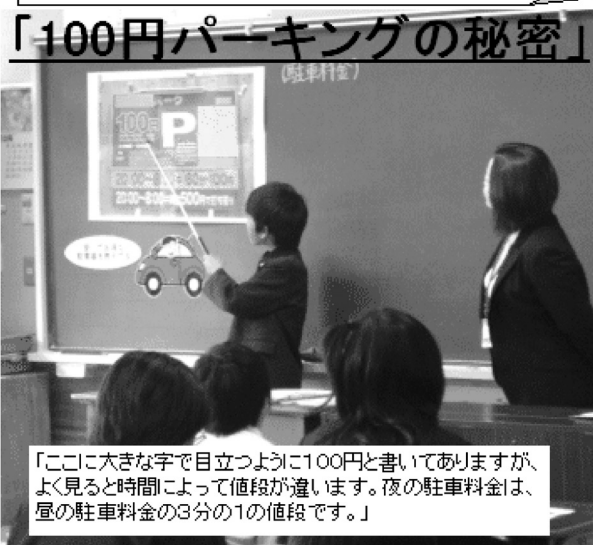
ステップ②思考・判断

取り出した情報について、各教科で身に付けた知識・技能や経験に関連付けて、論理的に考え、判断します。

ステップ③表現

自らの考えを目的に応じて、文章や記号、式、図、グラフなどを用いて適切に表します。

言語・数理運用科の実践例



この授業は、「100円パーキング」の看板を題材に、駐車料金を考える学習を通して、情報を読み取り、筋道を立てて考える能力を培います。

図1 「H20.6版」での紹介

れるのである。

続いて、調査活用協力校における取組事例として、広島市立袋町小学校・千田小学校の実践が報告されている。袋町小学校の場合は5年「アストラムラインで行こう！」（H20の実践。現行はH22より「アストラムラインで楽しもう」に改訂。）が、千田小学校の場合は5年「給食から自給率について考えよう」（H20の実践。現行はH22より「未来の給食を考えよう」に改訂。）が、それぞれ取り上げられている。「言語・数理運用科」実践の成果と課題を整理すると、表1のようになる。

本稿では、各校の成果はそれとして確認し、それ以上に課題の方に注目し、後の「4 考察」において、検討の対象としていきたい。

表1 H21.8版における成果と課題

	広島市立袋町小学校	広島市立千田小学校
成果	<p>(1) 多くの児童が学習内容に興味を持ち、楽しく学習に取り組んでいる。(ふりかえりカードから)</p> <p>(2) 多くの児童がじっくりと課題について考え、持っている力を使って思考している。(ふりかえりカードから)</p> <p>(3) 学んだことを生活に活かそうとしている。(感想やふりかえりカードから)</p> <p>(4) 自分の考えや思いを何とか伝えようとする児童が増えている。(授業の様子から)</p> <p>(5) 表現することの楽しさや喜びを感じている児童が増えている。(授業の様子から)</p>	<p>(1) 問題を発見し、思考・判断する力(問題解決力)の育成について 低・中学年は、見学など直接体験を通して問題を発見する力、高学年は、グラフ・絵や図・写真、新聞記事等の資料から問題を発見し、それらをうまく活用して課題を解決する力が育っている。また、学年が進むにつれ、学んだことを自分の言葉でまとめたり、発信したりすることができる児童が増えてきた。</p> <p>(2) かかわりを大切にし、ともに高まる力(かかわる力)の育成について どの学年も、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れ、学習形態を工夫することで児童がお互いの思いや考えを知り合うことができた。そのことが、学習意欲にもつながり、友達の考えにかかわりのある発表をすることができる児童が増えてきた。</p> <p>(3) 学習を振り返り自らの考えを明らかにする力(自己評価力)の育成について 各研究教科において、多くの情報から、伝えたいことを選び、表現する学習活動を取り入れた。最初、児童は情報の取り出しにも戸惑っていたが、学習を重ねるうちに、的確に要点を取り出すことができるようになってきた。また、取り出した情報をもとに自分の考えを表現していく力もついてきた。</p> <p>(4) 授業力の向上と基礎・基本の学力の定着について 本年度、授業力の向上を目指し年1回の公開授業だけでなく、言語・数理運用科の授業を全員が年1回、5・6年の学級に入り行った。また、後期に入ってお互い国語の授業を参観する機会を設け、授業力の向上に努めた。 基礎的・基本的な知識や技能の定着については、朝学習と昼の帯タイム(計算タイム)の内容を見直し、1年間を見通した指導計画・学校全体としての系統性が図れるような指導計画を作成して実践してきた。</p>
課題	<p>(1) 各教科の既習内容が十分に定着していない児童は、意欲はあるのだが、考えをすすめていくための計算力でつまずいたり、考えはあるのだが自分の考えを文章に書き表したり伝えたりすることが難しかったりなど、言語・数理運用科で思考・判断し、表現していくことが難しい。</p> <p>(2) 児童にどれだけ思考力・判断力・表現力がついたか見取っていくことが難しい。(評価規準、評価方法を検討していく必要がある。)</p>	<p>(1) 問題を発見する力や探求力、問題解決力、表現力といった考える力の高まりには、個人差が認められる。</p> <p>(2) 本校が研究してきた「身に付けるべき3つの力¹⁾」について、全ての児童が一樣に力を付けていると言えない。そのため今後も引き続き、体験活動や見学活動などの学習活動を大切に、「考える力」を引き出す授業づくりについて研究を深めたい。 また、児童の興味関心を高める学習材の開発、指導法の工夫、朝学習や昼の帯タイム(計算タイム)の有効な活用による基礎学力の定着を図ることで、研究主題に迫っていきたい。</p>

3 授業実践の参観から

実際に筆者が研究会に参加し、自分の目で捉えたことを、ここで使わせていただくことにする。

研究会は、平成24年11月29日（木）の午後に行われた広島市立口田小学校・口田幼稚園公開研究会である。同校では、本学の実習生のみならず、卒業生も多数お世話になっており、何かとご指導賜っている。

研究主題は、「友達を大切に、自分が生きるキャリア教育—コミュニケーション能力の育成を目指して—」であった。山田明美校長の指導のもと、本年度から上記の研究テーマを掲げて、精力的に研究を重ねておられる。児童の課題を捉え、その改善を図るべく、この研究主題が設定されている。児童が学ぶ意欲をもって学校生活を送り、達成感や充実感を感じることができるとを願い、児童どうしのかかわりを大切にしながら学びを深め、「分かった」「できた」という気持ちが次の意欲へとつながる指導を追究されている。なお、詳しい研究方針・計画等については、同校のホームページでも公開されているので、ここではこれ以上触れないことにする²⁾。

当日は、6年2組の「言語・数理運用科」の公開授業を参観することができた。指導は、中村敏裕教諭と松島真里子教諭によるチーム・ティーチングである。学習指導案は、本稿の最後の部分に掲載させていただく（資料ア）。

山田校長のご厚意で、授業の全てをVTRに撮らせていただくこともできた。じっくりと授業を振り返り、指導内容を精査していき、つかんだことをもとにして、次の「4 考察」で、検討を加えることにする。

4 考察

先の「2 公的に表明されている見解から」で示した「課題」は、筆者として次のように整理できると考える。

ア 学んだ知識や技能を活用し、思考・判断・表現する力につなげるところに課題があり、個人差の問題もある。

イ 児童同士のかかわりが活発になり、よりよい活動となるような学習過程を創出したい。

ウ アに関連して、評価規準・評価方法を検討する必要がある。評価については、児童に自己評価をどのようにさせればよいかという問題もある。

その際に、忘れてはならないガイドブック的役割の出版物としての広島市教育委員会（2011）から、やはり「課題」意識の高い部分を抽出すると、上記のものとはぴったりと重なることがわかる。それは、思考・判断・表現の出発点であり根幹・ベースとも言える「思考」そのものの捉え方の難しさや、力としての付け方の難しさである。「課題」の内実は、次の7点である。①「思考」の定義が不明確であること。②「思考力」を身に付けるための支援・指導方法が不明確であること。③「思考力」について、評価の方法、評価規準が不明確であること。④「思考」している児童生徒の見取りが困難であること。⑤「知識や技能」の習得中心の授業になりがちであること。⑥「思考・判断」する時間が授業の中で確保されていないこと。⑦「習得した知識や技能」を活用する場面が少ないこと。

そこで、広島市教育委員会としては、「思考する手立て」を次の表2のように規定し、実践の中で重視するように呼びかけたのである。これは、全ての教科・領域で使っていくように促されているものである。

以上のことを受け、口田小学校の実践事例（資料イ 本時の授業記録（概要））をもとに、教師た

表2 思考する手立て

A. 比較して考えること	B. 分類・整理して考えること
C. 要因となる事柄に関連付けて考えること	D. 多面的・総合的に考えること
E. 類推的・帰納的・演繹的に考えること	F. 評価して考えること

ちは「課題」をどのように克服していこうとしているか検討したい。

「思考する手立て」を使う場面を整理すると、以下の表3のようになる。「言語・数理運用科」の場合は、特にA・B・D・Fが多くなっていると考ええる。

表3 「思考する手立て」の配置

学 習 活 動 (学 習 場 面)	主な「思考する手立て」
1. 前時の学習を想起する。	(F)
2. 学習のめあてを確認する。	(F)
3. 投票結果を知り、理由を交流する。	<u>A</u> B D
4. 自分達のメニューを見直し、お客さんが食べたくなるようなメニューにする方法を考える。	A <u>B</u>
5. 考えた方法をグループで交流し、お店に提案するメニューを発表する。	<u>A</u> D
6. 学習のまとめをする。	D <u>F</u>

学習指導案(資料ア)の「10 学習展開」に載っている学習活動(学習場面)が、上表の左半分である。右半分は、その各段階において、主な「思考する手立て」がどのように位置づいていくのかわかるようにしている。そこで挙げた記号(アルファベット)のうち、下線を付したものが、より中心となる手立てであると考ええる。さらに、()の中に入れたものは、そこでは直接的には使われないが、後のために布石的な役割をするということに記している。以下、段階ごとに要点を示す。

【1. 前時の学習を想起する。】

指導者(T1・T2)は、ランキング形式で投票結果を発表し、児童が緊張感・期待感を持って聞く(注目する)ように工夫している。それぞれのグループが作成したメニューのポスターは、教室側面上部に掲示されており、誰もがすぐに見ることができるになっている。「(F)」としているのは、本時で作成したメニューの「改訂版」に対して、「元版」にあたるものをしっかりと心に焼き付けさせる意味で、後の第6段階の振り返りの部分に役立っていると考ええるからである。

【2. 学習のめあてを確認する。】

第1段階の最後のところで述べたことと同様な意味で、「(F)」としている。明確なめあて意識を持たせれば持たせるほど、学習活動も充実するし、評価・振り返りもズレが生じない。

【3. 投票結果を知り、理由を交流する。】

ここで「A」としたのは、投票結果の上位グループのポスターの内容に共通するものを、繰り返し見つけるといふ、いわゆる「類比」の思考をさせているからである。

例えば、授業記録にもあるように、指導者は、それとなくメニューをサンフレッチェ広島の優勝や「三ツ矢」イコール三種類の具材とつなげ、ニュース・話題性を持たせたり、具材のよさ・旬を強調できたりしていることを伝え、「分類・整理」する思考に誘っている。それらの工夫が他にもあり、寄せ集めていかせることにより(アピール度・説得力のアップという技能形成にもつなげている)、「B」や「D」の思考もさせていると見ることができる。

【4. 自分達のメニューを見直し、お客さんが食べたくなるようなメニューにする方法を考える。】

授業記録でも示したように、指導者側から、「メニューを見直すポイント!」「メニューをこういうふうに変えようという例示(ひな形)」が与えられている。あくまでも、基本的な考え方である。変

えたいところは遠慮なくそうしてよいと、指導者は認めていた。食材や調理の方法や説明についての「分類・整理」の思考が主要であり、「B」が自ずと中心的位置を占めることとなる。メニューのポスターの「元版」と「改訂版」の「比較」がなされるという意味から、「A」が入ってくる。

【5. 考えた方法をグループで交流し、お店に提案するメニューを発表する。】

4の学習活動との関連から「A」が位置づき、グループでの交流によるバラエティーの豊富さの面から「D」が入る。

【6. 学習のまとめをする。】

ここは、「自己評価」や「相互評価」といった「評価」活動が展開されていることから、直接的に「F」が位置づく。また、時間の許す限り、多数（4名）の児童に発表させ、多様な考えを出させたことから、「D」の思考もあると判断した。

最後に、本授業を通して言えることとして、図表形式のもの、いわゆる非連続型テキストの活用が大いになされ、関連重点教科の国語科・家庭科とともに養成する学力がより確かになっている点が特色であると思われる。国語科との関連の面では、ポスターづくり・使用によるプレゼンテーションとセッション（質疑応答や討論など）の技能を伸ばしている。同様に、家庭科では、「三大栄養素の表」（黄色は主にエネルギーの基になる食品・緑色は主に体の調子を整える食品・赤色は主に体を作る基になる食品）等を使い込む力が育まれている。言語・数理運用科と国語科、家庭科とのトライアングルで、ダイナミックな言語活動が展開され、生きて働く力をつけることがめざされているのである。個に応じた指導も本実践では工夫が随所に見られ、個別で考える時間の確保（当日は8分間）もめざされていた。これらの点から、「言語・数理運用科」の課題解決の方向を考えていく上で、示唆に富んだ実践であったと言えるだろう。

注

- 1) 以下の三つの力である。①児童が自ら問題を発見し、思考・判断する力（問題解決力）。②かかわりを大切にし、ともに高まる力（かかわる力）。③学習を振り返り自らの考えを明らかにする力（自己評価力）。
- 2) ただし、「言語・数理運用科」実践の成果と課題にあたるものは、当日の研究会資料には盛り込まれていない。また、同校のホームページでも同様である。それは、同校の研究教科が「言語・数理運用科」だけではないということが主たる理由であろう。

参考文献・URL

- 広島市教育委員会（編）. 2011. 言語活動実践ガイド—思考力・判断力・表現力を高める「ひろしま型カリキュラム」—. ぎょうせい
- 広島市立口田小学校（編）. 2012. 広島市立口田小学校・口田幼稚園公開研究会資料
文部科学省サイト <http://www.mext.go.jp/>
広島市教育委員会サイト <http://www.city.hiroshima.lg.jp/>
広島市立口田小学校サイト <http://www.kuchita-e.edu.city.hiroshima.jp/>

第6学年〈言語・数理運用科〉

学んたり体験したりしたことを、自分の生活に生かそうとする態度を育てる。

全体構想

単元名「地場産物を使った広島らしいメニューを考えよう」

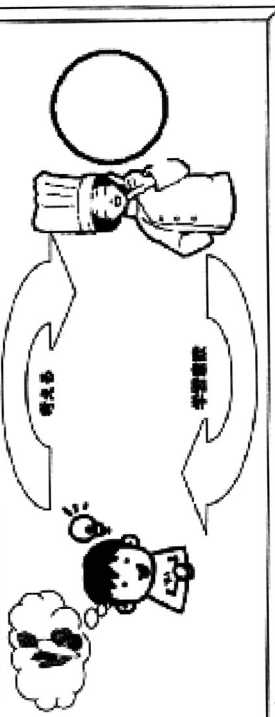
【ねらい】

・ 地場産物や献立に関するテキストや献立に関するテキストから情報を取り出し、地場産物を使った栄養バランスのとれたメニューを考え、それを言葉や絵で相手に分かりやすく表現することができる。

【本単元とキャリア教育】

本単元は、地場産物を使ったメニューを一人一人が考ええる学習を行うことで、今まで学んだことや経験したことを、自分の生活に生かしていこうとする態度を育てることをねらいとしている。この実践は、ひろしま型カリキュラムの言語・数理活用科の時間に、今年で閉じた国語の基礎をまよとめる力、伝える力、要約力の学習の基礎、生活経験などを統合して、課題を解決していく。児童が考えたメニューは、地域の飲食店の協力を得て、メニュー化したお正月といふメニューを設定している。そのため、美事に順番ベースにのり、多くの人の「食」として生かされることで、学習意欲を高める。

この実践を通して、自分たちが学習していることは、社会の中で様々な形になっていることを実感を持って感じることができ、学習は自分たちの生活に生かされる基礎になっていることを実感することができると考えている。



【家庭科】〈くふうしよう 楽しい食事〉

【国語科】「探めよう、言葉の世界」

【理科】「探めよう、言葉の世界」

【社会科】「探めよう、言葉の世界」

【算数科】「探めよう、言葉の世界」

【音楽科】「探めよう、言葉の世界」

【体育科】「探めよう、言葉の世界」

【芸術科】「探めよう、言葉の世界」

【外国語科】「探めよう、言葉の世界」

【総合科】「探めよう、言葉の世界」

【道徳科】「探めよう、言葉の世界」

【キャリア教育】「探めよう、言葉の世界」

【生活科】「探めよう、言葉の世界」

【保健科】「探めよう、言葉の世界」

【情報科】「探めよう、言葉の世界」

【特別支援科】「探めよう、言葉の世界」

言語・数理活用科学習指導案

指導者 丁1 中村 敏昭
丁2 松島 真梨子

1 学年・組 第6学年 2組 34名

2 単元名 地場産物を使った広島らしいメニューを考えよう

3 単元の目標

・ 地場産物に関するテキストや献立に関するテキストから情報を取り出し、地場産物を使った栄養バランスのとれたメニューを考え、自分の考えを言葉や絵を使って表現することができる。

4 単元の詳細目標

情報を取り出す力	思考・判断する力	表現する力
<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じて、文章、図、表、 テキストを理解し、重要な 食や地場産物について必要な 情報を取り出している。 	<ul style="list-style-type: none"> 形用動詞紹介、トピック集の テキストを際立たせ、地場産物 を使った栄養バランスのとれ たメニューを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の伝えたいメニューを 理由や根拠を示しながら短小 評鑑などで表現している。

6 キャリアの観点からつたたい力

★ 学んだり体験したりしたことを、自分の生活に生かそうとする態度を育てる。

7 単元について

○ 児童の状況

本単元の児童は、第5学年の「未来の給食を考えよう」で、給食の作りまわりの資料から給食の歴史について調べ、それをもとに絵や文章で90年後の給食を考ええる学習をしている。その学習を通して、理由や根拠を具体的に示しながら文章したり、自分で考えた未来の給食のよさが伝わるようなキャッチコピーを作ったりしている。また、第5学年の総合的な学習の時間では、地場産物について調べ、地域で栽培されている小松菜を自分達で育て、レシピを考えたメニューの学習もしているため、食に関する関心が高い。さらに第5学年の家庭科「たまご料理」では、栄養バランスのとれた一日分の献立を考え、調理学習もしている。

児童は、言語・数理活用科の学習を通して、資料から必要な情報を取り出し、短い言葉でよめ、友達に伝える活動には慣れてきているため、資料を読み取る際には、様々な視点から読み取ることができ、しかし、資料と関連付けて考えることが難しい児童もいる。表現する力についても、個人差があり、苦手意識の強い児童も見られる。

○ 教材の価値

本教材は、地場産物を使った広島らしいメニューを考ええる単元であり、食育につながるものである。資料から地場産物の特徴、旬、料理方法、栄養素を知り、それらを基に料理レシピと関連付けて栄養バランスのとれたメニューを考える。児童は、これまでに身に付けてきた「情報を取り出す力」や「資料と関連付ける力」を活用することができると考えられる。また、自分で考えたメニューのプレゼンテーションやメニューを考えることは、国語で身に付けてきた要約する力も生かすことができ、主体的に学習にのぞむことができる。

児童が各教科で身に付けてきた力を生かしながら地場産物を使ったメニューを考えようという活動、食育についての考えを広げ、これからの生活に生かしていくことのできる教材である。

○ 指導の工夫

指導にあたっては、児童が考えた栄養メニューに投票で順位を付ける。投票する際には、栄養バランスは整っているか、彩りは良いか、分かりやすいメニュー名になっているかなどを重点で投票する。順位が付くことで、食べたいメニューと食べたくないメニューがはっきりとし、お客さんが食べたくなるようなメニューにするためには、どうすれば良いかを進んで話し合うことができる。

資料を関連付けて考えることが難しい場面に対しては、必要な情報を関連付けて考えられるように、二次に他の児童と自分の考えを交換しながら、協力してメニューを考えうる場面を設定した。ポスターセッション形式で発表することで、表現することによって考えの異なる児童が、互いの発表を聞いた時、ポスターを見たりして、理由や根拠を分かりやすく説明できるように指導していきたい。

児童が考えたメニューは、地域の飲食店の協力を得て、お店のメニューとして提供していただけるようにした。そのことで、自分の考えたメニューが実際にお店にお客さんに食べてもらえるからうれいという嬉しい表情をもち考えられるよう指導していく。

B 単元の学習と評価の計画(全4時間)

時	学習活動 (評価方法)	観 点	
		観察 できる点	指導 点
一	1 給食の献立資料から騎士料理や地産産物について知り、店舗らしいメニューを作ろうとする意欲をもつ。 (ワークシート、発表)	○	
二	2 出場産物に関するアンケートから情報を取り出し、関連させて、弁当メニューやメニュー名を考える。 (ワークシート、発表)	○	
三	3 弁当メニューやメニュー名を、ポスターセッションで発表し、食べたいメニューに投票する。 (ワークシート、発表)		○
四	4 投票結果から、お客さんが食べたいメニューについて考え、自分達のメニューを見直す。 本時 (ワークシート、発表)		○
五	5 出場産物に関するアンケートから情報を取り出し、関連させて、和食メニューやメニュー名を考える。 (ワークシート、発表)		○
六	6 自分で考えた出場産物を使った和食メニューやメニュー名を理由や根拠を示しながら発表する。 (ワークシート、発表)		○



9 本時の目標 (二次 第4時)

- 投票結果から、お客さんが食べたいメニューについて考え、自分のメニューを評価する。

10 学習展開

学習活動	授業の三つの観点の観点	評価項目・評価方法
1 前時の学習を振り返る。	授業の結果を発表することで、お客さんが食べたいメニューについて意欲をもって考えられるようにする。	
2 学習のめあてを確認する。	○ メニューを凝縮版をもとに、根拠理由を求めさせ、内容を分かりやすく説明すること、お客さんが食べたいメニューを考えた理由を伝えるようにする。 【知覚的人間関係形成の場】	
3 投票結果を知り、理由を交換する。 ・ Aグループは、栄養バランスが良いと、彩りも良かったので食べたいと思い投票しました。 ・ BはBグループを選んだ理由は、三つあります。一つ目は、栄養バランスがとれていたことです。二つ目は、和の調味料を使っていたことです。三つ目は、メニューが分かりやすく、食べてみたいと思っていたからです。		
4 自分達のメニューを凝縮し、お客さんが食べたいメニューにする方法を考える。 ・ 和食のメニューは、旬の食材を生かすことを中心に考え、栄養バランスが整ったので、食材を多く、全ての栄養バランスが整うように考え直しました。 ・ ほかのメニューは、栄養バランス、彩り、旬の食材、どれもバランス良く考えることができていたが、もっと見た目が良くなるように盛り付け方を工夫しました。それと、旬の良さが伝わるようにメニュー名を考え直しました。	○ 投票理由を紙書で確認しながら、自分達のメニューをお客さんが食べたいメニューに変えることができるようにする。 【自己決定の場】	
5 考えた方法をグループで交換し、お店に提案するメニューを発表する。	○ グループ交換することで、お互いの考えの良さを認め合いながら、グループとしての改善点を決め、お店に提案するメニューとして発表できるようにする。 ○ 交換は、本時で学習したことを生かしながら、自分で考えたメニューを伝えることを伝え、賞状をもらうことができるようにする。 ◎ お客さんが食べたいメニューについて考えを求め、次の課題に生かせるようにしたい。	A 投票理由をもとに、お客さんが食べたいメニューにする方法を三つ以上考えている。 (ワークシート、発表) B 投票理由をもとに、自分達のメニューをお客さんが食べたいメニューにする方法を三つ以上考えている。 (ワークシート、発表) ・ 和食のメニューは、栄養バランスは整っていたけれど、彩りが悪かったことで、和の野菜を減らして、赤色や黄色の野菜を加えてみました。 (ワークシート、発表)
6 学習のまとめをする。		

資料イ 本時の授業記録（概要）

※ 以下の記録のうち、掲示資料の文字表現や児童の話し言葉の表現は、なるべくそのままの形で示すようにした。

学習活動1 前時の学習を想起する。

教師は、前時の投票結果を受けての順位発表をする。テレビ画面に、スライドで映し出す。教師は、業者が採用するにあたって、今日の授業で考えたものが有力な材料となることを伝え、児童の意欲づけをした。結果は、次のように、全8チームのもの（メニュー）を、7位から1位に向けて発表したのち、最後に8位のものを出して、児童の気持ちを引き寄せるように意図していた。

第7位	5票	ほかほか ^{かき} K・ ^{グラ} G・ ^{タン} T
第6位	6票	えだまめドリア (夏においしいえだまめを使った色どりの良いドリアです。)
第5位	9票	冬においしい広島グラタン (赤・黄・緑の食材を使い、栄養バランスを整えました。)
第3位	10票	チヌのカルパッチョ
第3位	10票	トマトとあじのレモンソースマリネ (夏においしいトマトとあじのレモンソースマリネを作りました。)
第2位	11票	トマトの具だくさんドリア
第1位	14票	フルーツケーキ(春夏秋冬) (いつでも「春夏秋冬」を味わえるぜえー)
第8位	3票	なすびのグラタン

学習活動2 学習のめあてを確認する。

本時の学習のめあてとして、「投票理由からお客さんが食べたくなるようなメニューを考え、自分達のメニューを見直そう。」と板書された。児童は、ワークシートに書き写し、脳裏に焼き付けた。

学習活動3 投票結果を知り、理由を交流する。

上位グループの投票理由の一覧表を読み、なぜそうなったのかを考えさせた。共通する理由を挙げさせた。

児童からは、彩りがよい、見た目がよい、盛りつけがきれい、ソースのカップを工夫している、ビタミンCが多いなどが挙げられた。

指導者は、3位の理由にも目を配って見つけてみるように指示した。繰り返しの思考活動となる。さらに共通項を見つけるよう働きかけた。

児童からは、二つとも栄養バランスがよい、栄養の三要素が考えられているなど、家庭科での学習成果を生かした発言が聞かれた。他には、盛りつけがお花みたいできれい、彩りがよい、地場産物を使っているなどが出された。

指導者は、地場産物を使っているという意見を受け、当たり前だけれども、他の班は使っていないところが多い、と注意を向けた。ちゃんとアピールすべきことはするように促した。全体的に、見た目のことを表しているのが多すぎることを指摘し、多様な思考をしていくよう強く訴えたように感じた。

さらに、メニューを、サンフレッチェ広島の優勝や三種類の具材とつなげたこと、旬ということを意識していることなど、メニューのプレゼン用紙に書かれた内容の中に、いいところがあったことを

認め、まだ考えることができそうだという期待を投げかけた。

学習活動4 自分達のメニューを見直し、お客さんが食べたくくなるようなメニューにする方法を考える。

ここでは、単刀直入に、スライドで教師の方から提示した。スライド内容は、以下のとおり。

お客さんが食べたくくなるようなメニューにするためには、どうしたらよいでしょうか。
メニューを見直すポイント！
食材を変える。加える。減らす。
バランスを考える。(見た目・栄養)
お客さんが食べたくくなるようなメニュー名に変える。
(食材の特長や良さを生かして！)

教師は、「こうすると説得力が増す」と力説した。さらに、次のスライドを見せた。自分達のメニューをこういうふうに変えようという例示である。

ぼくたちのメニューには【いろどり】が足りない。
だから、【緑色のパセリ】を入れよう。
これを入れると【緑色】が加わり見た目がきれいになった。

上記の【 】の部分に自分の考えを書こうと促す。8分間取り、独りで考えるよう指示。三大栄養素の図も掲示してヒントの一つとした。

学習活動5 考えた方法をグループで交流し、お店に提案するメニューを発表する。

6班は、「冬においしい広島グラタン」の改良案を発表。「なすびの大きいのをお皿にして、今までの具にサツマイモとマカロニを入れて、新たな広島グラタンを作ることになりました。」というもの。

1班は、「黄色の食べ物がないので、パンを付け加えることにしました。フランスパンにレモンソースを塗って、棒状にして、オーブンでカリッと焼いて食べやすくしました。」と発表。

「なすびのグラタン」の班は、「メニュー名を〈三層のミルフィーユグラタン〉に変えました。材料は、マカロニ、ジャガイモなど、二層目、三層目もいろいろ。一番上にホワイトソースをかけ、トマトもつけて。」とアピール。

学習活動6 学習のまとめをする。

ふりかえりの発表を、児童の自主発言でさせる。「多くの票をもらうには、地場産物をたくさん使ったり、彩りをよくしたり、栄養バランスを整えたりすることが大事だとわかりました。」「お客さんにはよく見ないと(不明…聞き取りづらい点があったため)見た目を見てもらえないので、クラスからみんなに票を入れてもらうには、彩り・見た目・盛りつけが大切だとわかりました。お客さんに見てもらうには、名前が大切だとわかったので、変えたいと思いました。」「栄養とかが豊富に入っているけど、大体の人は見た目だけで選ぶことがわかりました。見た目もよくて栄養が入っている料理を作るのは難しいと思いました。」「今日の学習で、どれだけレストラン(自営業)の人が料理を考えるのに悩んで苦しんでいるのかがよくわかりました。なすびのマカロニグラタンの人があんなに進化していたので、最後に驚きました。」と続いた。

指導者は、最後の児童の意見を受けて、「レストランの人はメニューを考えるのに相当苦労しているから、今日考えたのが認められるかも知れないね。」と、子どもたちの頑張りを認め、授業を終えた。